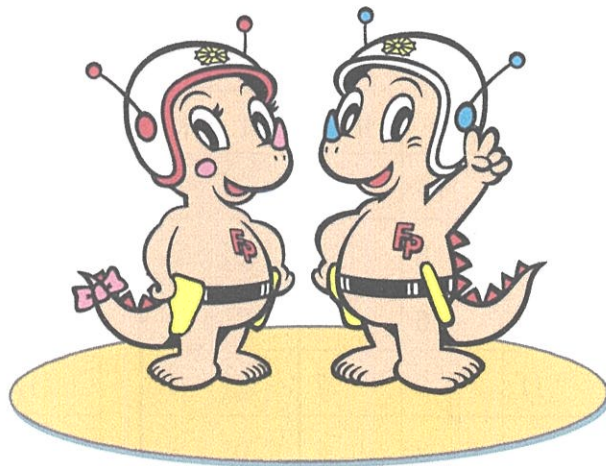


# 福井県の治安情勢 [8月末現在]

(数値は暫定値)



令和元年9月2日 河和田小学校における児童見守り活動



— 福井県警察 —

## 1 刑法犯

### (1) 刑法犯の認知・検挙状況

認知件数は2,078件で、前年同期に比べて35件(1.7%)減少

検挙件数は1,242件で、前年同期に比べて226件(22.2%)増加

検挙率は59.8%で、前年同期に比べて11.7ポイント上昇

		H28	H29	H30	R1.8末
福井	認知件数(件)	3,645	3,231	3,197	2,078(-35)
	検挙件数(件)	1,905	1,764	1,786	1,242(+226)
	検挙人員(人)	1,153	1,150	1,117	787(+107)
	検挙率(%)	52.3	54.6	55.9	59.8(+11.7p)
全国	認知件数(件)	996,120	915,042	817,338	495,448(-47,741)
	検挙件数(件)	337,066	327,081	309,409	187,938(-12,683)
	検挙人員(人)	226,376	215,003	206,094	124,483(-9,063)
	検挙率(%)	33.8	35.7	37.9	37.9(+1.0p)

※1 表の( )内は、前年同期比を示す

※2 検挙率とは、当該年の認知件数に対する検挙件数(当該年以前の認知事件の検挙を含む。)の割合

### (2) 重要犯罪の認知・検挙件数

認知件数は16件で、前年同期に比べて11件(40.7%)減少

検挙件数は14件で、前年同期に比べて12件(46.2%)減少

【認知件数】

(単位:件)

	H28	H29	H30	R1.8末
殺人	1	6	7	3(-3)
強盗	5	8	7	1(-5)
放火	3	6	4	3(±0)
強制性交等	11	2	7	2(-1)
略取・誘拐	6	2	2	0(-1)
強制わいせつ	16	8	12	7(-1)
合計	42	32	39	16(-11)

【検挙件数】

(単位:件)

	H28	H29	H30	R1.8末
殺人	1	6	7	2(-4)
強盗	4	8	7	1(-5)
放火	3	6	4	3(±0)
強制性交等	12	2	7	2(-1)
略取・誘拐	6	2	2	0(-1)
強制わいせつ	18	8	12	6(-1)
合計	44	32	39	14(-12)

(3) 街頭犯罪等8類型の認知件数

認知件数は592件で、前年同期に比べて65件(9.9%)減少

(単位:件)

	H28	H29	H30	R1.8末
車上ねらい	238	202	277	108(-108)
自動販売機ねらい	27	5	19	9(-5)
自動車盗	32	36	23	16(-1)
オートバイ盗	42	17	10	4(-4)
自転車盗	558	484	487	322(+13)
空き巣	118	78	63	45(+6)
忍込み	38	46	38	46(+21)
住居侵入	70	49	45	42(+13)
合計	1,123	917	962	592(-65)

2 子供を犯罪から守る対策

(1) 子供に対する声かけ事案等

相談等件数は168件で、前年同期に比べ23件(15.9%)増加

(単位:件)

	H28	H29	H30	R1.8末
小学生以下	80	82	95	80(+14)
中学生	45	52	47	36(+10)
高校生	111	79	89	51(±0)
その他	6	10	4	1(-1)
合計	242	223	235	168(+23)

※ 声かけ事案等とは、性犯罪等の前兆とみられる声かけ、つきまとい等をいう。

(2) 子供への声かけ事案等に対する先制・予防的活動

検挙、指導・警告件数は62件で、前年同期に比べて4件(6.9%)増加

(単位:件)

	H28	H29	H30	R1.8末
検挙	11	26	24	22(+10)
指導・警告	43	64	68	40(-6)
合計	54	90	92	62(+4)

### (3) 主な施策

- ア 登下校時間帯における通学路等の警戒・パトロールの強化
- イ 声かけ事案等の行為者を早期に特定し、検挙、指導・警告等の先制・予防的活動を推進
- ウ 防犯ボランティアに対する情報提供と見守り活動への協力依頼
- エ リュウピーネットやGIS（安全・安心マップ）による、タイムリーな不審者情報の発信
- オ 保育園・幼稚園や学校における防犯教室、不審者対応訓練の実施



下校時の見守り活動  
(子ども重点見守りデー)



不審者対応訓練

## 3 非行少年を生まない社会づくり

### (1) 非行少年の推移

検挙・補導した非行少年は74人で、前年同期に比べて13人（21.3%）増加

(単位：人)

	H28	H29	H30	R1.8末
犯罪少年	126	95	87	58(+12)
触法少年	43	38	22	14(-1)
ぐ犯少年	1	0	0	2(+2)
非行少年総数	170	133	109	74(+13)

### (2) 主な施策

- ア 電気通信事業者と合同による、SNS等を利用した犯罪又は被害防止のための情報モラル教室
- イ イベント会場における薬物乱用防止に関する広報啓発活動
- ウ 少年警察ボランティアによる広報啓発、被害防止教室
- エ 少年が集まりやすい祭礼行事等における街頭補導活動



情報モラル教室



大学生ボランティアによる防犯教室

#### 4 女性を犯罪から守る対策

##### (1) 女性が被害者となる犯罪の認知・検挙件数

認知件数は149件で、前年同期に比べて43件(40.6%)増加

検挙件数は142件で、前年同期に比べて46件(47.9%)増加

(単位:件)

	H28		H29		H30		R1.8末	
	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙
強制性交等	11	12	2	2	7	7	2(-1)	2(-1)
強制わいせつ	16	18	8	8	12	12	7(-1)	6(-1)
略取誘拐・人身売買	6	6	2	2	2	2	0(-1)	0(-1)
暴行	71	72	106	102	103	97	93(+22)	90(+25)
傷害	50	44	43	43	36	35	47(+24)	44(+24)
合計	154	152	161	157	160	153	149(+43)	142(+46)

##### (2) ストーカー事案の相談等・検挙状況

相談等件数は77件で、前年同期に比べて37件(92.5%)増加

検挙件数は16件で、前年同期に比べて8件(100.0%)増加

(単位:件)

	H28	H29	H30	R1.8末
相談等	122	74	74	77(+37)
検挙	24	29	8	16(+8)
禁止命令・警告	41	40	27	39(+25)

##### (3) DV事案の相談等・検挙状況

相談等件数は154件で、前年同期に比べて40件(35.1%)増加

検挙件数は93件で、前年同期に比べて35件(60.3%)増加

(単位:件)

	H28	H29	H30	R1.8末
相談等	195	174	187	154(+40)
検挙	63	88	99	93(+35)
保護命令	11	10	9	5(-1)
警告	94	70	70	41(-1)

##### (4) 主な施策

ア ストーカー・DV事案に対する被害者の迅速な安全確保と行為者に対する指導・警告、検挙の措置の徹底

イ ストーカー行為者に対応する警察官が、精神科医やカウンセラーから、ストーカー行為の再発防止のための対応方法について専門的な助言等を受け、行為者の更生を支援

※ R1.8末:8事案について8回実施

## 5 高齢者を犯罪から守る対策（特殊詐欺対策）

### (1) 特殊詐欺の認知件数及び被害額（H30以降特殊詐欺（窃盗）を含む）

（※ 被害額の1万円未満は四捨五入）

- ・ 特殊詐欺（詐欺・恐喝・窃盗）の認知件数は19件で、前年同期に比べて3件（13.6%）減少
- ・ 被害金額は約9,462万円で、前年同期に比べて約322万円（3.5%）増加

#### 【被害の特徴】

- ① 手口別では、架空請求詐欺の割合が多い（11件、57.9%）
- ② 65歳以上の割合は約7割（13件、68.4%）
- ③ 交付形態別では、「振込型」3件、「手交型」3件、「送付型」2件、「電子マネー型」6件、「キャッシュカード手交型」2件、「キャッシュカード窃取型」3件

		H28		H29		H30		R1.8末	
		認知 (件)	被害額 (万円)	認知 (件)	被害額 (万円)	認知 (件)	被害額 (万円)	認知 (件)	被害額 (万円)
特殊詐欺 (詐欺・恐喝)	オレオレ	17	4,523	26	9,765	6	661	2(-1)	53(-508)
	架空請求	22	16,708	39	10,302	22	10,373	11(-5)	8,705(+671)
	融資保証金	2	389	2	188	2	215	1(±0)	458(+393)
	還付金等	9	593	5	535	0	0	2(+2)	96(+96)
	金融商品	2	3,560	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
	ギャンブル	1	1	1	534	0	0	0(±0)	0(±0)
	異性交際	0	0	0	0	1	51	0(-1)	0(-51)
	その他	0	0	3	2,600	0	0	0(±0)	0(±0)
	小計	53	25,775	76	23,924	31	11,300	16(-5)	9,312(+601)
特殊詐欺(窃盗)		—	—	—	—	1	429	3(+2)	150(-279)
合計		53	25,775	76	23,924	32	11,729	19(-3)	9,462(+322)

特殊詐欺（窃盗）とは、オレオレ詐欺等の手口で被害者に接触し、被害者の隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗をいう。平成30年以降は、特殊詐欺被害に「特殊詐欺（窃盗）」を加えて計上。

### (2) 検挙状況（助長犯罪 ※を含む）（H30以降特殊詐欺（窃盗）を含む）

検挙人員は21人で、前年同期に比べて3人（12.5%）減少

	H28	H29	H30	R1.8末
検挙件数（件）	71	49	39	24(+2)
検挙人員（人）	40	51	36	21(-3)

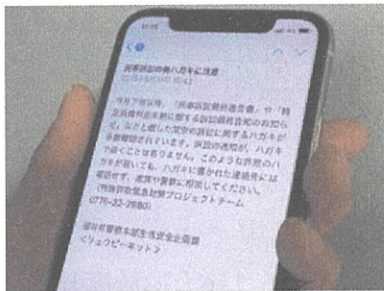
※ 助長犯罪とは、売却目的で携帯電話や預貯金口座を不正に取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪をいう。

### (3) 主な施策

特殊詐欺緊急対策プロジェクトチーム（H29.11発足）による抑止と検挙を両輪とした対策を推進

#### ア 被害防止対策

- 予兆電話認知時等におけるリュウピーネットや Yahoo!防災速報による県民へのタイムリーな情報発信
- オートコールシステムによる金融機関、タクシー事業者に対する速やかな情報配信
- 制服警察官による高齢者宅への集中的な巡回連絡や、高齢者が集まる場所での分かりやすい出前講座による直接指導
- 金融機関、コンビニエンスストアにおける声かけ訓練の実施や、県警察オリジナルの「声かけ用シート」、「注意喚起スタンド」の配付による被害の未然防止対策
- 生命保険協会や理容生活衛生同業組合、美容業生活衛生同業組合との協定に基づく県民への注意喚起



リュウピーネットによる  
情報発信



コンビニエンスストア  
での声かけ訓練



理容生活衛生同業組合等  
との協定

#### イ 取締り

- 「だまされた振り作戦」や他の都道府県警察との連携による犯行グループの壊滅に向けた取締り
  - ・ タイを拠点とする特殊詐欺の犯行グループの逮捕  
(R1.5～)
- 携帯電話や預貯金口座の不正取得など、特殊詐欺を助長する犯罪の取締りと犯行ツールの無力化対策の推進

## 6 暴力団等組織犯罪対策

### (1) 暴力団対策

#### ア 検挙状況

検挙人員は67人で、前年同期に比べて2人(2.9%)減少 (単位:人)

	H28	H29	H30	R1.8末
刑法犯	53	34	76	37(-2)
特別法犯	33	42	36	30(±0)
合計	86	76	112	67(-2)

#### イ 山口組分裂に伴う諸対策

- 既存の「六代目山口組・神戸山口組対立抗争集中取締本部」を継続し、暴力団犯罪の取締りと暴力団関係箇所の警戒活動を徹底 (H29.4~)

#### ウ 取締り

- 二代目中西組六代目宮原組幹部らによる出資法違反、脅迫、犯罪収益移転防止法違反事件 (R1.5)

#### エ 暴力団排除活動の取組

- 「福井県企業防衛対策協議会」や「福井県公益事業暴力追放連絡協議会」など、あらゆる分野や業種との連絡体制を確立し、暴力団等からの危害防止のための支援を実施
- 暴力追放敦賀市民会議による決起大会及び暴力団事務所付近の街頭行進を支援し、地域からの暴力団完全排除等を目的とした暴排活動を実施 (R1.6)
- 「暴力のない安全で安心して暮らせる福井県」の実現のため「暴力追放福井県民大野大会」を開催し、県民に対して暴排気運を醸成 (R1.8)



暴力追放敦賀市民会議決起大会・街頭行進



暴力追放福井県民大野大会

### (2) 薬物犯罪対策

#### ○ 検挙状況

検挙人員は39人で、前年同期に比べて2人(5.4%)増加 (単位:人)

	H28	H29	H30	R1.8末
覚醒剤	22	47	37	28(+1)
大麻	14	16	13	10(±0)
その他	0	1	0	1(+1)
合計	36	64	50	39(+2)



## 7 交通事故から県民を守る対策

### (1) 交通事故の発生状況

交通事故死者数は19人で、前年同期に比べて1人(5.6%)増加

車両乗車中の事故による死者10人のうち5人がシートベルト非着用

	H28	H29	H30	R1.8末
総事故件数(件)	23,984	25,060	25,540	14,475(-3,104)
人身事故件数(件)	1,847	1,549	1,398	786(-164)
死者数(人)	51	46	41	19(+1)
傷者数(人)	2,141	1,761	1,589	906(-190)
物損事故件数(件)	22,137	23,511	24,142	13,689(-2,940)

※ 全国の交通事故死者数(R1.8末)は1,925人で、前年同期に比べて254人減少

### (2) 交通事故から高齢者を守る対策

ア 高齢者(65歳以上)が犠牲となる交通死亡事故

高齢者の死者数は11人で、前年同期に比べて3人(21.4%)減少

	H28	H29	H30	R1.8末
全死者数(人)	51	46	41	19(+1)
高齢死者数(人)	37	25	28	11(-3)
構成率(%)	72.5	54.3	68.3	57.9(-19.9p)

イ 高齢交通弱者が犠牲となる交通死亡事故

高齢交通弱者(歩行者・自転車乗用中)の死者数は7人で、前年同期に比べて1人(12.5%)減少

歩行中の死者3人のうち2人は夜間歩行中の事故であり、いずれも反射材非着用

(単位:人)

	H28	H29	H30	R1.8末
高齢交通弱者の死者数	23	17	15	7(-1)
歩行中	10	14	10	3(-3)
自転車乗用中	13	3	5	4(+2)

ウ 主な施策

- 高齢交通弱者に対する反射材タスキの貸与による保護誘導活動
- 反射材普及協力店等と連携した反射材普及促進活動
- 歩行環境シミュレーター等を用いた、参加・体験・実践型の出前交通安全教室
- 「早めの前照灯点灯」と「ハイビーム実践運動」



交通安全教育車を活用した参加・体験・実践型の交通安全教室



反射材普及・貼付活動

(3) 高齢運転者対策

ア 高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故

全ての交通死亡事故のうち、高齢運転者が第1当事者となる死亡事故は6件で、前年同期に比べて1件(14.3%)減少

(単位：件)

	H28	H29	H30	R1.8末
交通死亡事故件数	49	46	39	19(+1)
高齢運転者が第1当	14	12	15	6(-1)

イ 主な施策

- ドライブレコーダーを活用した個別の交通安全指導
- 過去に複数回事故歴を有する高齢者に対する訪問指導
- 70歳以上の高齢運転者中心とした「シルバー・セーフティドライビング講習」



ドライブレコーダーを活用した交通安全指導



安全運転サポート車を用いた体験講習

(4) 悪質・危険運転者対策

ア 飲酒運転対策

(ア) 飲酒運転による人身事故

飲酒運転による人身事故は15件で、前年同期と同数

死亡事故件数は2件で、前年同期と同数

	H28	H29	H30	R1.8末
人身事故件数 (件)	28	27	21	15( ±0)
死亡事故件数 (件)	7	7	4	2( ±0)
構成率 (%)	25.0	25.9	19.0	13.3(±0.0p)

(イ) 飲酒運転の取締り

飲酒運転の検挙件数は126件で、前年同期に比べて7件(5.9%)増加

	H28	H29	H30	R1.8末
検挙件数 (件)	188	201	229	126( +7)

(ウ) 主な施策(飲酒運転根絶気運の醸成)

- ハンドルキーパー運動の広報啓発
- 小学児童等を「リュウピー・リュウミー交通保安官」に任命し、家庭や地域から飲酒運転根絶気運を醸成
- 県内居住地区別の飲酒運転取締り状況を表した「飲酒運転マップ」を県警ホームページに掲載し、広報啓発活動や交通安全講習等で活用

イ あおり運転対策

(ア) 車間距離保持義務違反等の取締り

車間距離保持義務違反の検挙件数は49件で、前年同期に比べて16件(48.5%)増加

進路変更禁止違反の検挙件数は8件で、前年同期に比べて1件(14.3%)増加

	H28	H29	H30	R1.8末
車間距離保持義務違反 (件)	3	3	42	49( +16)
進路変更禁止違反 (件)	2	3	8	8( +1)

(イ) 検挙事例

- 鯖江市内における両当事者が被疑者となる傷害、過失運転致傷事件 (H30.12)
- 坂井市内における危険運転致傷(進路妨害)事件 (H31.2)

